

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2011・7 vol.418

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

救援物資、震災募金への御礼

この度の東北地方太平洋沖地震に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



矢巾キャンパスと岩手山

〈6月16日(木) (関連記事P3)〉

おもな内容

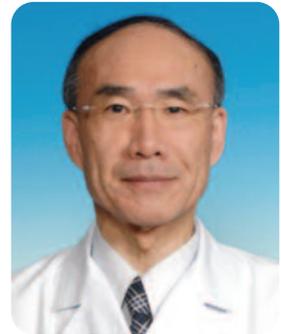
- 巻頭言 図書館長に就任して 図書館長 武田 泰典
- 特集 矢巾キャンパス新校舎の紹介
- 新人職員教育研修を受けて
- トピックス 第74回解剖体慰霊祭が行われる
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.28

図書館長に就任して

図 書 館 長

病理学講座病態解析学分野教授

武 田 泰 典



澤 井高志教授（病理学講座先進機能病理学分野）の後任として、このたび4月1日付で図書館長を拝命いたしました。ご承知のように現在本学の歴史的な事業である総合移転整備計画の第二次事業が進捗中であり、矢巾キャンパスにおける西研究棟ならびに講義実習棟の落成、医学部と歯学部との基礎部門の統合と矢巾キャンパスへの移転、新附属病院ならびに内丸メデイカルセンターの基本設計、などで平成23年が明けました。そして新年度を迎えようとしていた矢先に未曾有の天災に襲われましたが、大堀理事長、小川学長のつよいリーダーシップのもと、非常事態下の地域医療の中核を担いながら諸学事がはじまり、入学式を迎えることができました。附属図書館も直接的ならびに間接的被害を受けましたが、関係各位のご助力とスタッフの懸命な努力とにより、5月の連休明けからは通常の業務ができるようになりました。心から感謝申し上げます。

大 学の附属図書館はその大学の知的象徴としての時代に即した機能が求められてきました（資料の収集、整理、保存、提供、集会活動や行事の実施、資料および施設利用に関する指導、等）。過去を遡りますと、昭和22年に岩手医学専門学校図書室が岩手医科大学附属図書館と改称され、昭和40年代に現在の本館が落成しました。この本館落成には大学当局の熱い思いと期待とが込められており、設計や設備に当時の最新の配慮がなされました。私にとっても学生として、そしてその後は教育職員として教育、研究、診療の職務を果たすために必要不可欠な存在でした。

これからも、図書館に求められる基本的な機能は変わることはないと考えますが、氾濫する情報のなかで、図書館に対する要望が多様化、高度化してきており、様々な部門や委員会と共に検討しなければ時代に即した対応が困難であることも事実です。紙媒体から電子媒体への対応、教育の場としての空間的ならびに機能的な在り方、知的活動の外部への発信、等々。現在、附属図書館として、内丸キャンパスに本館が、矢巾キャンパスに分館がおかれていますが、第三次事業では新たな施設が竣工することになっています。

4 月1日に小川学長から辞令を拝するにあたり、形を変えることは簡単だが魂を入れる事こそ必要だ、との思いを新たにしました。40年前に購入し、今でも愛用している解剖学のテキストに次のような序文があります：『昔時の開拓者の風ぼうに接する思いで、夜のふくるのを知らず、己が努力の足らざるを深く恥ず。ひるがえりて、現時の学生に思いをはせるならば、壮大なる館、完全なる設備の中で、1年有余、もっとも合理的、かつ能率的な教育を受けし者にて、なおかつ、春眠をむさぼり一つの骨の名称すらつまびらかにせぬ輩に接し、心を痛めるのみ。』

こ れは「蘭学事始」から汲み取った思いを同輩に勉学の鐘として打ち鳴らしたものです。この文のなかの“現時の学生”を“己”に置き換えて戒のことばとし、皆様のご協力を頂きながら職責を果たす所存です。よろしく願い申し上げます。

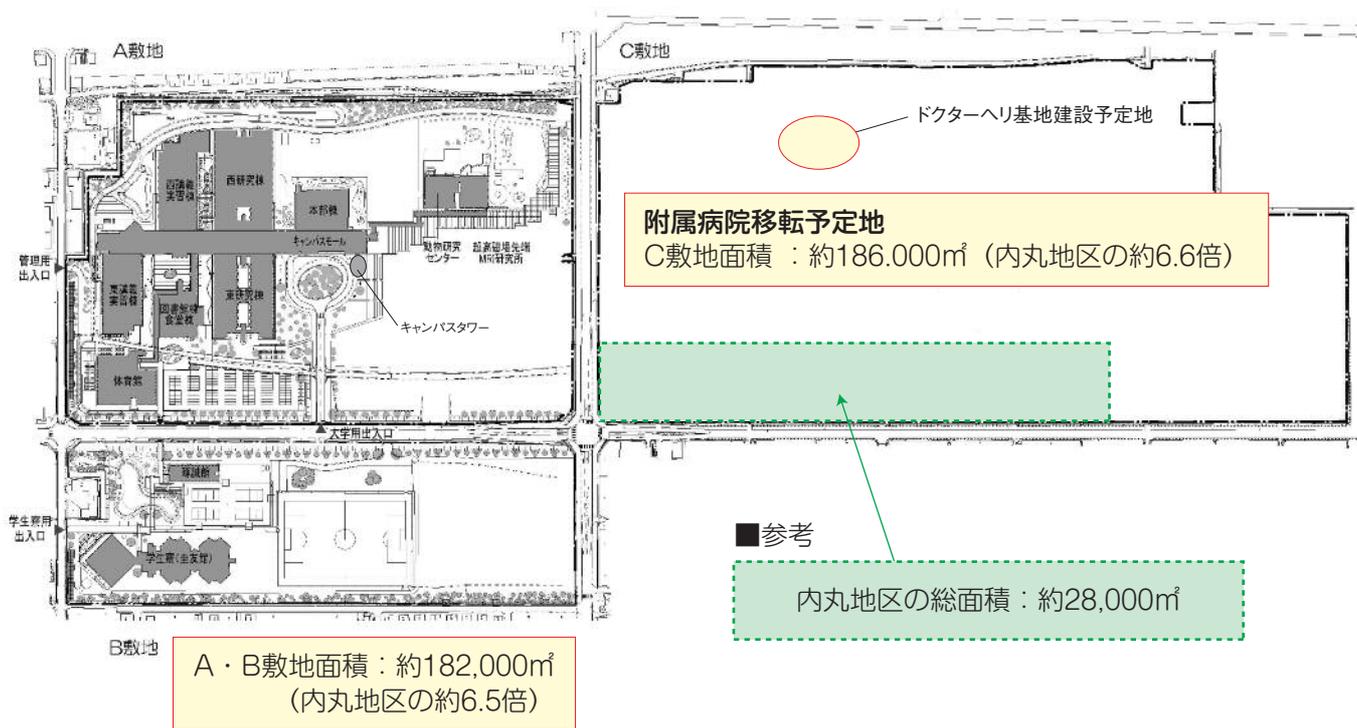
特集

矢巾キャンパス新校舎の紹介

総合移転整備計画第二次事業の完了により、矢巾キャンパスは、わが国で初めて医学部・歯学部・薬学部の医療系三学部を同一キャンパスに存立することになりました。

「三学部連携」という構想は、施設の設計段階から盛り込まれ、全ての教室や実習室、研究室は学部単位に設けられていません。仕切り壁もなくフレキシビリティに富んだ造りとなっていて、生命科学の進歩発展や時代の要請に応じた自在なレイアウトの変更を可能としています。

今後は、矢巾キャンパス北側の隣接地に附属病院の移転整備を進める予定となっていて、土地の造成工事が進んでいます。

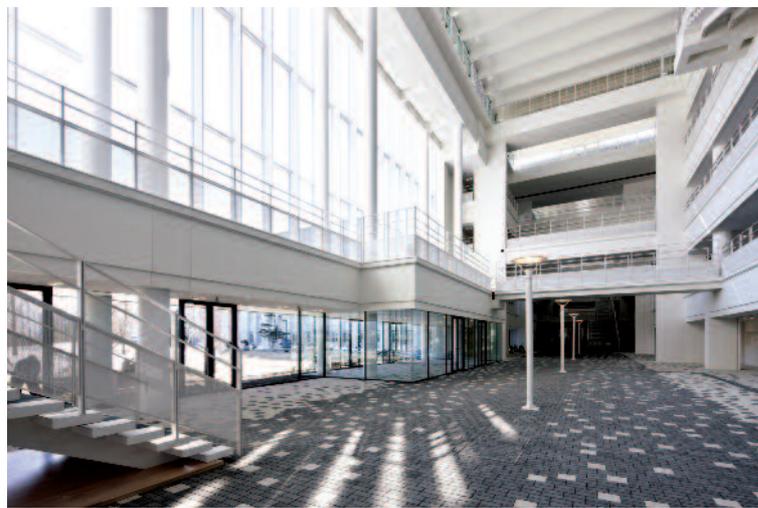


キャンパスタワー



矢巾キャンパスに悠々とそびえ立つ、本学のシンボルとなっています。
夜間時にはライトアップすることも可能です。

エントランスホール・キャンパスモール



大学の正面玄関となるエントランスホールは、全面ガラス張りの明るく開放的な空間となっています。
4層吹き抜けの大動脈、キャンパスモールに連結してキャンパス全体を見通すことができ、矢巾キャンパスのターミナルとなっています。

本部棟



事務室・ロビー（1階）

エントランスホール正面に隣接する本部棟1階には、事務室とガラス張りの明るく広いロビーが設けられています。学生、教職員はもちろん、矢巾キャンパスを訪れた方がアクセスしやすい明快で開放的な空間となっています。



大堀記念講堂（2階）

岩手山を一望するホワイエに囲まれた大堀記念講堂は、500名を収容することができます。全体を落ち着いた色調で統一し、格調ある空間としています。講堂正面には2面投影等、様々な映像を映し出す大型スクリーンを設置。また、同時通訳ブースのスペースを確保し、国際会議への対応も可能としています。



SGL 室（3階）

語学や問題解決型学習等の少人数教育や学生の自習スペースに最適な10人単位の小教室を24室用意しました。

一部の部屋はパーティションの開閉によりフレキシブルに活用することができます。廊下面をガラス張りとし、教育・学習活動のオープン化を図っています。

※SGL とは、Small Group Learning（少人数学習）の略



会議室（4階）

会議人数に応じた3室の会議室が設けられ、内丸キャンパスとを結ぶ TV 会議システムが導入されています。

また、同階には理事長室、学長室等の他に、開放的な光庭を設けています。

動物研究センター、超高磁場先端 MRI 研究所



超高磁場先端 MRI 研究所（写真左側）

世界でも数十台、わが国でも国内2例目となる最新鋭の7テスラ MRI 装置を導入した先端研究施設です。

脳神経疾患や精神疾患を始めとした人体の病態解明に向け、講座・学部横断的な共同研究が行われていきます。

動物研究センター（写真右側）

本学で行われる動物実験を支援する本格的施設です。動物の飼育から実験までをセンター内で完結できることをコンセプトとし、1階には動物飼育室10室と P2 感染実験室1室及び洗浄室、2階には実験室10室と手術室2室を用意しています。

西講義実習棟



講義室（1階）

スロープフロアの150人収容講義室とフラットフロアの90人収容講義室に最新鋭の講義システムが導入されています。150人講義室はスクリーンを2台設置、多様な講義に対応します。90人講義室はパーテーションを開放し、大講義室として利用することもできます。



実習室（2階～4階）

将来的なカリキュラム再編による合同実習を想定し、隣接する140人収容と80人収容の実習室は共通の仕様としています。パーテーションを開放すると一度に220人の合同実習が可能となります。

西研究棟



ラウンジ（1階）

教職員と学生の交流の場として、開放的な空間となっています。コンビニショップとも隣接し、各種打合せ、語らいの場として利用されています。



共同研究スペース

西研究棟には講座研究室、医歯薬総合研究所の研究室の他に、3学部の共同研究スペースが設けられています。学部の垣根を越えた魅力ある研究活動が期待されます。

琢誠館



学生のクラブ活動の拠点、琢誠館には部屋を24室用意しました。1階には外から直接使えるシャワーを設置し、運動部の活動を支援します。3階の音楽練習室は防音、吸音設備を完備しています。

太陽光発電システム



矢巾キャンパスの敷地内に、県内最大級の常時最大100kWを発電する太陽光発電システムを設置しています。

地球環境に優しい新エネルギーシステムの構築と先進的なエコキャンパスづくりを推進します。

平成22年度 決算

大学の経営は、少子化の進行に伴う18歳人口の減少などにより大学間の競争が激化するなか、入学定員の充足が大学の維持に不可欠なものとなっています。また、3月に発生した東北地震大津波大災害による甚大な被害は、復興とその財源の確保などが問題視され、日本経済に大きな影響を及ぼしています。

このような環境下において、本学はさらなる教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しています。主に、総合移転整備計画第二次事業、PET・リニアック先端医療センターや超高磁場先端MRI研究所が完成し、また、最先端の大型機器や電子カルテシステムの導入など設備の充実を図りました。

平成22年度消費収支決算では、大規模事業などがあり15億8,100万円の支出超過額の計上となりました。

1. 消費収支の概要

(1) 消費収入

消費収入の合計額370億5,771万円は、前年度比9億5,145万円(2.5%)減少、予算比では3億8,894万円(1.0%)下回りました。

① 学生生徒等納付金73億6,175万円は、前年度比2億8,445万円(4.0%)増加しました。主に医学部定員増の学年進行および薬学部開設4年目に伴う増加と、歯学部の学生数減による減少がありました。

② 医療収入292億3,058万円は、前年度比18億9,485万円(6.9%)増加しました。

附属病院医科の医療収入は、前年度比16億5,185万円(8.1%)の増加、歯科医療センターは1,354万円(1.3%)の増加、循環器医療センターは2億3,156万円(5.4%)の増加、花巻温泉病院は2,762万円(1.8%)の減少となりました。

③ 補助金合計額は、31億3,173万円で前年度比1億5,607万円(4.7%)減少しました。

私立大学等経常費補助金18億1,201万円は、前年度比5,388万円(3.1%)増加、その他の国庫補助金では、私立学校施設整備費補助金4,156万円、私立大学等研究設備整備費等補助金4,635万円、大学改革推進等補助金9,166万円、医師臨床研修費補助金4,264万円、歯科医師臨床研修費補助金6,118万円等で合計3億2,339万円でした。また、地方公共団体補助金は、高度救命救急センター運営費補助金4,000万円等で合計9億9,633万円となり、前年度比2億1,999万円(28.3%)増加しました。

(2) 消費支出

消費支出の合計額386億3,871万円は、前年度比4億1,537万円(1.1%)増加、予算比では2,243万円(0.1%)下回りました。

① 人件費185億5,071万円は、前年度比4億3,219万円(2.3%)減少しました。

給与、賞与、所定福利費の合計173億1,791万円は、前年度比9,643万円(0.6%)減少し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計11億7,958万円は、前

年度比3億3,506万円(22.1%)減少しました。

② 医療経費112億1,839万円は、前年度比5億8,499万円(5.5%)増加しました。医薬品費は、前年度比5億7,073万円(10.9%)の増加、医療材料費は560万円(0.1%)の増加、給食材料費は866万円(3.9%)増加しました。

医療収入に対する医療経費割合は38.4%となり、前年度の38.9%を0.5%下回りました。

③ 光熱水費は、重油料2億5,491万円、ガス料1,679万円、電気料4億1,729万円、水道料2億1,924万円、合計9億823万円となり前年度比8,716万円(10.6%)増加しました。

④ 修繕費は、施設修繕費2億3,332万円、機器備品修繕費1億3,353万円、合計3億6,684万円となり前年度比3,506万円(8.7%)減少しました。

⑤ 消耗品費9億921万円は、前年度比2,331万円(2.6%)増加しました。

⑥ 印刷製本費1億6,545万円は、前年度比977万円(5.6%)減少しました。

⑦ 業務委託費22億9,281万円は、前年度比9,786万円(4.5%)増加しました。部門別では、附属病院医科10億7,476万円、歯科医療センター8,775万円、循環器医療センター3億194万円、花巻温泉病院1億4,440万円、その他6億8,396万円でした。

⑧ 公租公課6,440万円は、消費税1,104万円、法人税1,974万円、事業税847万円、固定資産税・都市計画税1,194万円等でした。

⑨ 学生福利費3,305万円は、学友会館諸経費1,264万円、その他健康診断経費・予防接種経費等でした。

⑩ 職員福利費1億1,756万円は、健康診断諸経費1,948万円、保育園運営管理委託料1,695万円等でした。

⑪ 減価償却額25億2,008万円は、前年度より1億5,749万円増加しました。

⑫ 資産処分差額4,479万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等でした。

2. 資本収支の概要

(1) 資産の部

総合移転整備計画第二次事業の完成により増加した資産は、施設関係109億3,362万円、設備関係3億6,300万円となりました。また、PET・リニアック先端医療センターの完成により施設関係10億3,475万円、設備関係7億2,312万円、超高磁場先端MRI研究所の完成により施設関係6億2,965万円資産が増加しました。

- ① 施設関係131億2,394万円は、病院移転用地取得18億4,725万円、建設仮勘定支出103億8,324万円等でした。
- ② 設備関係32億7,537万円は、教育研究用機器備品32億1,671万円等でした。
- ③ 施設拡充引当特定資産として32億円を積み立て、第二次事業資金として全額86億6,959万円を取り崩しました。
- ④ 貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫

分であり、医薬品・医療材料3億9,011万円、歯科貴金属437万円、合計3億9,448万円でした。

(2) 負債、基本金、消費収支差額の部

- ① 前受金残高14億1,650万円は、平成23年度入学生の学生生徒等納付金等でした。
- ② 預り金残高4億7,427万円は、源泉所得税4,494万円、県市町村民税8,969万円、私学共済掛金9,668万円等でした。
- ③ 基本金は67億7,565万円を組入れし、810億6,684万円となりました。
- ④ 消費支出超過額15億8,100万円と前年度繰越消費支出超過額100億810万円を合計した翌年度繰越消費支出超過額は、115億8,910万円となりました。
- ⑤ 自己資金（基本金+翌年度繰越消費支出超過額）は、前年度より51億9,465万円増加し、694億7,774万円となりました。

平成22年度 消費収支計算書 (単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	7,361,747	人件費	18,550,712
手数料	182,744	医療経費	11,218,387
医療収入	29,230,581	消耗品費	909,208
寄付入金	2,404,822	光熱水費	908,229
補助金	3,131,727	旅費	216,668
資産運用収入	239,513	修繕費	366,842
資産売却収入	600	業務委託費	2,292,812
事業収入	621,763	減価償却額	2,520,078
雑収入	659,866	資産処分差額	44,794
帰属収入合計	43,833,363	その他諸経費	1,610,984
基本金組入額合計	△ 6,775,654		
消費収入の部合計	37,057,709	消費支出の部合計	38,638,714
当年度消費支出超過額	1,581,005		

平成22年度 資金収支計算書 (単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	7,361,747	人件費支出	18,533,155
手数料収入	182,744	諸経費支出	17,697,965
寄付金収入	2,213,241	施設関係支出	13,123,941
補助金収入	3,131,727	設備関係支出	3,275,369
資産運用収入	239,513	資産運用支出	3,200,403
資産売却収入	500,000	その他の支出	2,947,739
事業収入	621,763	資金支出調整勘定	△ 4,695,058
医療収入	29,230,581	次年度繰越支払資金	14,484,726
雑収入	659,866		
前受金の収入	1,365,273		
その他の収入	15,245,491		
資金収入調整勘定	△ 7,400,571		
前年度繰越支払資金	15,216,865		
収入の部合計	68,568,240	支出の部合計	68,568,240

貸借対照表 平成23年3月31日 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	61,008,686	固定負債	5,895,405
有形固定資産	54,848,411	流動負債	6,517,594
その他の固定資産	6,160,275	負債の部合計	12,412,999
流動資産	20,882,050	基本金	81,066,840
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 11,589,103
資産の部合計	81,890,736	負債・基本金・消費収支差額の部合計	81,890,736

被災地の支援活動を振り返って

3月11日に発生した東日本大地震・大津波大災害により被災された方々には、心からお見舞い申し上げます。地震発生直後から、多数の本学職員・学生が被災地での支援活動を行っています。

本号では、被災地での支援活動を行った職員から原稿が寄せられましたのでご紹介します。

※大学報では、被災地の支援活動を行った職員からの原稿を募集していますので、

大学報事務局（企画課）内線：7023 E-mail：kikaku@j.iwate-med.ac.jp までお寄せください。

歯科医療救援隊に参加して感じたこと

歯科衛生部 主任歯科衛生士 赤松 順子

あの日入れ歯を食事の後はずして、逃げるのに精一杯で家ごと津波で流してしまったという。私達が最初に訪問したのは災害が起こって3週間経過した4月初旬である。その間、食事をどのようにして食べていたのだろうか。食べられるものを食べていたということだったが、入れ歯を紛失した方の中には胃の調子が悪いという方もいた。報道等によると配給される食事は冷たいおにぎり、パンなどと聞いていた。限界にきていたのだろう。私達の診療を心待ちにしていた様子が伝わってきた。入れ歯の型を取ってもらって嬉しい、わかめをお土産にあげたいが今年ではできないと残念そうに話してくれた人もいた。診療は避難所の体育館の片隅で行ったこともある。昼食時間になるとカップ麺を食べている方が多かった。カップ麺のメリットは、麺の硬さを自分の好みに調整できることと、温かい汁物であることであると思う。歯がない場合でも軟らかくなれば食べやすくなり、避難所生活の中で自分の好みに調整できる唯一の食物なのではないかと感じた。普段であれば、ご飯も野菜も肉も自分が食べ易い調理方法で食べることが出来ていたと思う。

食べることは、直接生きることに繋がる。そればかりでなく、ストレス解消や楽しみにもなる。食べる環境を整えるために歯科医療を通して微力ではあるが被災者を支援していきたいと思った。また、1日でも早く食べたいものを食べやすい状態で美味しく食べられる日常を取り戻し、元気になっていただきたいと感じた。後片付けをしていたら、夕食のお弁当が運びこまれていた。食べられるものが入っていますようにと祈りながら帰路についた。



東日本大震災被災地医療救援隊に参加して

歯科衛生部 歯科衛生士 宇部 恵理香

この度、東日本大震災被災地の医療救援活動に参加させていただきました。被害の大きい沿岸部への派遣は、当初不安な思いもあり、歯科衛生士として自分にはできることは何だろうと自問自答しながらのスタートとなりました。実際に現地を訪れると、思わず目を疑うような光景に災害の大きさを肌で感じました。

避難所では、到着前から歯科治療を受けるために長蛇の列ができていた場所もありました。実際に口の中をみると、痛くてご飯を食べられない状態の人や、入れ歯を失くし不便を感じている人、不安な思いを抱え相談にくる人などが多く、その需要の多さに改めて歯科治療の大切さを再認識させられました。まずは、痛みをとり少しでもご飯が食べられる状態をつくること、口の中を清潔に保つことで誤嚥性肺炎の予防になることなど、歯科医師や歯科技工士と連携し、その場でできる最大限のことを行いました。その中で私がとても印象的だったのは、治療後に患者さんが「あなたたちが来てくれて本当に助かった」とほっとした表情で言った時のことでした。役に立てたことの嬉しさが

ふつふつと湧き、その笑顔を見て、改めて口は元気の源なのだ痛感致しました。

今回、歯科衛生士として救援活動に携わり、被災地で三位一体の治療をできたことは自分にとってこれ以上ない経験となりました。未曾有の大災害で今後、時の経過とともに求められることも変わってくると思います。今後も歯科衛生士としてできることを模索し、少しでも多くの方の健康に寄与できるよう携わって活動していきたいと思っています。



新人職員教育研修を受けて

● MFICU 助産師 小原 紀子



この度、岩手医大の職員として採用され、新入職員教育研修を受けました。そこで改めて、岩手医大の規模の大きさや、多種多様に渡る職員の数の多さを感じました。同時に、岩手医大がいかに岩手県の医療に貢献しているかということも実感しました。また、岩手医大創立の歴史についても知ることができ、その歴史の深さと業績の偉大さを知り、自分もその職員の一員となったことに対し身の引き締まる思いがしました。

私は以前、NICU で勤務していた経験があり、人工

肺サーファクタントでたくさんの命が救われたのを見ました。その開発と実用化は、岩手医大により行われており、私はその素晴らしい功績を実際に目にしていたのだと思いました。岩手医大の職員の一員となり、その素晴らしい功績を汚さない為にも、質の高い医療・看護を提供しなければならないと感じました。

また、3月11日の東日本大震災を受け、岩手県の医療はこれからますます全国的に注目され、岩手医大は県民からますます頼られる存在になると思います。この年に採用されたことに使命感を感じ、患者さん一人ひとりの生命の重み、健康の重みを大切にして、心のこもった看護をするように心掛けていきたいと思っています。

● 東9階 看護師 佐藤 美保



今回新入職員教育研修で様々なお話を聞くことができました。岩手医科大学の創設者である三田俊次郎先生が岩手の医療発達にどれほど力を入れ苦勞されたのかということ、台湾の社会基盤を後藤新平が、経済基盤を新渡戸稲造が、医学基盤を岩手医科大学初代学長である三田定則先生が造ったということなどを知ることができました。自分が就職した岩手医科大学の歴史、生まれ育った岩手の歴史を知ることができ、今後自分はどのように働くべきなのかを考えさせられました。

講話の中で、岩手医科大学の理念「誠の精進に基づく、

誠の医療の実践」にある「誠」の意味、誠の人間とはどんな人間なのかとの問いがありました。誠とは誠実を意味し、誠の人間とは誠実な人間であるとして、誠実に働く、誠実な人材を育成し、誠実な人間になるということ、そのことが組織、学生、患者さん、県に、広くは世界の福祉のために尽くすことが結果として「報酬」＝「給与」として私たちに返ってきているとお話でした。このお話を聞いて漠然と捉えていた本学の理念の意味を理解することができ、今後誠実な人間となって、誠実に働いていくことが岩手医科大学で働かせていただくうえで忘れてはならない大切なことなのだ学びました。このことをしっかりと頭に入れ、岩手医科大学で働くということに誇りと責任を持って、これから働いていきたいと思っています。

● 総合移転計画事務室 事務員 櫻井 雄介



今回、新入職員教育研修会を受講させて頂き、岩手県のみならず、東北の医療の先端を担う本学職員の一員になることが出来た喜びと共に、今一度社会人として、そして本学職員としての義務と責任を感じる事が出来ました。本研修会を通して何度も耳にした学祖三田俊次郎先生の「誠の人間たれ」のお言葉には、非常に感銘を受けました。これは、学生のみならず、本学に関わる全ての方々当てはまることで、「誠の人間」とは「誠実な人間」であり、本学職員の一員として、誠実な姿勢で、誠実に働き、誠実な人間になれるように最大限の努力をしていきたいと私は思いました。そのためには、社会人としての自覚と、自己や身の

まわりへの責任を持ち、また、マナーや礼儀、他の職員の方々とのコミュニケーション能力も兼ね備える必要があります。さらに、今回の研修内容の一つでもある「医療安全」といった医療現場における問題等も知識として身につける必要があると考えます。

私は事務員ですが、単に事務員としてだけでなく、「岩手医科大学」のチームの一員として、他の職員の方々協力しながら、微力ながらも本学の益々の発展に寄与できるように日々精進していきたいと思っています。

最後に、3月11日に発生しました東日本大震災の影響が残る中、ご多忙中にもかかわらず、新入職員研修会を開催して下さいました先輩職員の方々へ、深く感謝申し上げます。

「ウェルかむ2011—噛んで食べて歯°ワーアップ!—」が行われる

6月3日(金)に本学附属病院歯科医療センターにおいて、歯の衛生週間にちなんだイベント「ウェルかむ2011—噛んで食べて歯°ワーアップ!—」が行われ、一般市民など総勢345名の来場者で賑わいました。

会場では、咀嚼力の測定や顕微鏡で口内細菌の観察ができる体験コーナーなどが設けられたほかに、本学歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士による東日本大震災被災地医療救護活動の様子を紹介するパネル展示などが行われました。また、歯を健康に保つ料理の試食コーナーでは災害時用非常食が紹介されました。

来場者らは、熱心に説明を聞いていて、歯の健康についての知識を深めている様子でした。



歯科技工コーナーの「まが玉」製作体験

附属病院で外来コンサートが行われる



6月4日(土)午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいて、今年で19回目となる岩手県民オーケストラによるコンサートが開かれ、入院患者さんやご家族らが生演奏に耳を傾けました。

このコンサートは、入院中の患者さんへ励ましと癒しを提供することを目的として、例年春と冬に開催されています。コンサートの開演に先立ち、病理学講座(病理病態学分野)の増田友之教授から患者さんへ挨拶があり、コンサートでは、「パイレーツ オブ カリビアン」や「ウエストサイドストーリー」など計8曲が演奏され、曲に合わせて、口ずさむ患者さんの姿も見られ、心温まるコンサートとなりました。

合同供養塔除幕式が行われる

4月23日(土)に完成した本学合同供養塔の除幕式が6月10日(金)午前10時から盛岡霊園にて執り行われ、小川学長、祖父江副学長ら本学関係者約10名が出席しました。

完成した供養塔は、本学献体者のうち、遺族不在等の理由で返還できない遺骨を埋葬して供養するため建立されたものです。式では、小川学長の挨拶、供養塔の除幕に引き続き、参列者全員による献花が行われ、霊の安らかならんことを祈りました。



ライオンズクラブ国際協会様から岩手医大眼球銀行に寄付金をいただきました



6月22日(水)、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナー相原文忠様他2名が来学し、本学眼球銀行(総裁:小川彰学長)に1,318,958円を寄付され、小川学長から感謝状が贈呈されました。

同協会から毎年いただいている寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。

ここにライオンズクラブ国際協会様には、心から御礼申し上げます。

クマゲラに魅せられて

医事課 松山 貴章

皆さんはクマゲラという鳥をご存じだろうか？

真っ黒なカラスが真っ赤なベレー帽を被っているような外見で、太いブナの木に穴を掘り、巣を作るキツキツである。

学生時代そんな愛嬌ある鳥に心を奪われ、撮影機材やテントを担ぎ奥へ奥へと山に入って行った。今回、このような機会を与えて頂いたので、私の学生時代に経験した1ページに少しの間お付き合いして頂きたい。

am 5:00。車1台に4日分の食糧と撮影機材、テントを積み込み目指すは世界遺産白神山地。東北道を北にひた走る。

今回の目的はクマゲラの営巣確認。三本に絞り、三班に分かれての定点観察。太陽が遮られ薄暗い森の中をカモフラージュの迷彩柄のポンチョを纏い、森の一部に溶け込む。

無線で連絡が入る。「今日のご飯はキノコたっぷりのキムチ鍋です。どうぞ。」顔がほころぶ。

なんの変化なし。ただひたすら辛抱。

一瞬、風の声の中に不自然な音を感じた。全神経を耳に集中させる。コロコロコロコロ……クマゲラ特有の鳴き声だ！急いでビデオを回す。キューーイキューー

ーイと周囲を警戒している様に頭上を旋回している。緊張がビデオに伝わる。2～3分のことだったろうか。期待とあきらめが入り混じった感覚で祈るようにビデオを回す。次の瞬間、巣の右方向よりスゥーッと降りてきたクマゲラが巣に吸い込まれていった。「入った!!」それまでの緊張が解きほぐれビデオの存在も忘れて声をあげてしまった。

クマゲラを確認できた喜びに酔いしれ、機材を片付けてベースキャンプに戻る。

その晩は鍋に舌包みを打ち、ビデオを流し大宴会は大いに盛り上がった。まだまだ続きそうだ。私はこっそりと抜け出し、一足先に床についた。

空には満点の星空。この雄大な森の中でクマゲラと夜を共にする贅沢さを感じながら。



北海道にて

理事会報告

■ 5月定例（5月30日開催）

1. 平成22年度事業報告について
2. 平成22年度決算及び監査報告について
3. 薬学部入学試験優秀者奨励奨学金規程の制定について
一層の志願者の増加と質の高い入学者の確保を目的に「薬学部入学試験優秀者奨励奨学金」を創設し、薬学部入学試験優秀者奨励奨学金規程を制定

前期一般	5位までの合格者5名以内	授業料等100万円減免
	10位までの合格者5名以内	授業料等50万円減免
指定校推薦	10位までの合格者10名以内	入学後の基礎学力調査テストで20位以内の場合、20万円の奨学金を給付
前期一般推薦	5位までの合格者5名以内	

（施行年月日 平成23年6月1日）

4. 薬学部学業奨励奨学金規程の一部改正について
薬学部入学試験優秀者奨励奨学金規程の制定に伴う関連条項の改正並びに所要の整備
(施行年月日 平成23年6月1日)
5. 地震・大津波災害による学生への支援策について
 - ①学納金納入の猶予
 - ②公的支援制度についての広報と利用の促進
 - ③父兄会奨学金制度の拡大運用
 - ④特別休学制度の導入
 - ⑤学納金等の減免措置
6. 転入学受入れに伴う学則の一部改正について
歯学部への転入学者の受入れに伴う関連条文及び授業料等に関する別表の一部改正
(施行年月日 平成23年6月1日)
7. 高度看護研修センターの設置に伴う組織規程の一部改正
大学病院の使命・役割である専門性の高い看護師の養成に向け、認定看護師の充実を図るため、附属病院に「高度看護研修センター」を設置
(施行年月日 平成23年6月1日)

岩手医科大学震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後年単位で続く事が予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。

皆様からのご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については企画部企画課 支援受付担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線 7022・7023) FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp



第87回大学報編集委員会

日 時：平成23年7月14日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、松政 正俊、小山 薫、佐藤 仁、佐々木 光政、赤松 順子、佐々木 忠司、中島 久雄、
岩動 美奈子、野里 三津子

編集後記

夏がまたやって来ました。震災による節電の中、30℃を越える気温の日も多くなっております。矢巾キャンパスの「太陽光発電システム」が家にあれば…と思いつつ扇風機で過ごしている毎日です。熱中症のニュースも多く聞こえてきますが、適度な水分補給と塩分摂取を心がけましょう。また、スイカや胡瓜など水分を多く含む夏に旬の食材は身体を冷やしてくれる作用がありますよ★皆さんで節電を心がけながら暑い夏を乗り切りましょう！

(編集委員 岩動 美奈子)

岩手医科大学報 第418号

発行年月日 平成23年7月29日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 28

眼科学講座

助教 後藤 恭孝



夏に多い眼の病気

夏はウイルスの感染による結膜炎がはやります。
次のような症状があったら要注意!!

- 白目やまぶたの裏が充血して赤い
- 目やにがたくさん出る
- 目がショボショボ、ゴロゴロする
- まぶしい
- 耳の前のリンパ腺が腫れた

これらは、夏に多いウイルス性結膜炎の主な症状です。結膜とは白目やまぶたの裏側を覆う薄い透明な粘膜で、ここにウイルスが感染して炎症を起こします。上記のような症状に気づいたら、早めに眼科を受診することをおすすめします。

主なウイルス性結膜炎には次に紹介する3種類があり、子どもが感染していると診断されたら学校、幼稚園、保育所などは休ませなければなりません。

(1) 流行性角結膜炎

いわゆる「はやり目」と呼ばれるもので、感染力の強いアデノウイルスによってもたらされます。感染してから1～2週間の潜伏期間をおいて発病します。ほかのウイルスによる結膜炎よりも症状が強く、まぶたが腫れ、大量の目やにで、朝目覚めたときに目が開けられないこともあるほどです。また、角膜(黒目の部分)の炎症も併発しやすく、それが悪化すると角膜に点状の濁りが生じてものが見えづらくなることがあるため、完治するまで治療を続けることが大切です。成人でも感染するので、周囲の人にうつさないためには仕事を休む必要があるでしょう。



(2) 咽頭結膜熱

流行性角結膜炎とは違うタイプのアデノウイルスの感染で、感染後5～7日で発病します。前記のような目の症状に加えて、のどの痛みや39度前後にもなる発熱があり、吐き気や下痢などまるでかぜのような症状がみられます。こちらも感染力が強く、夏はプールで子どもが感染しやすいことから「プール熱」とも呼ばれます。もちろん大人にも感染します。夏かぜと勘違いして眼科への受診が遅れ、症状を長引かせることがあるので注意しなければなりません。

(3) 急性出血性結膜炎

エンテロウイルスかコクサッキーウイルスが原因になります。感染してから1～2日と短期間で発症します。結膜下出血で白目が真っ赤になるので驚かされますが、1週間ほどで出血は吸収されます。



家族の誰かがウイルス性結膜炎に感染したときは、感染が広がらないように次のことに気をつけてください。

- 手を石けんと流水でよく洗う
- タオルは共用しない。できればペーパータオルを用い、使い捨てに
- 目を手でこすったりしない
- 目やにや涙はティッシュペーパーでぬぐい捨てる
- お風呂は最後に入り、お湯は捨てる

手洗いの習慣や汚れた手で目をこすらないことなどは、ウイルスの感染から目を守るのに大事なことです。夏はプールや海水浴など感染の機会が多いので、十分に手洗いするように心がけましょう。